

はくぶつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '85 12月号

冬期特別展

1986ハレー彗星展

12月1日～1月19日 博物館特別展示室

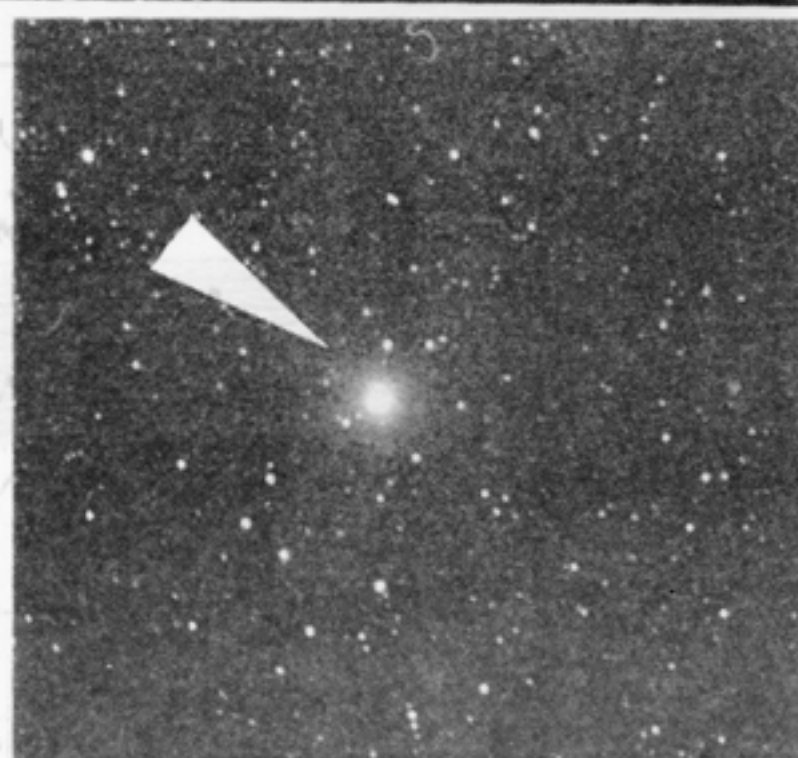
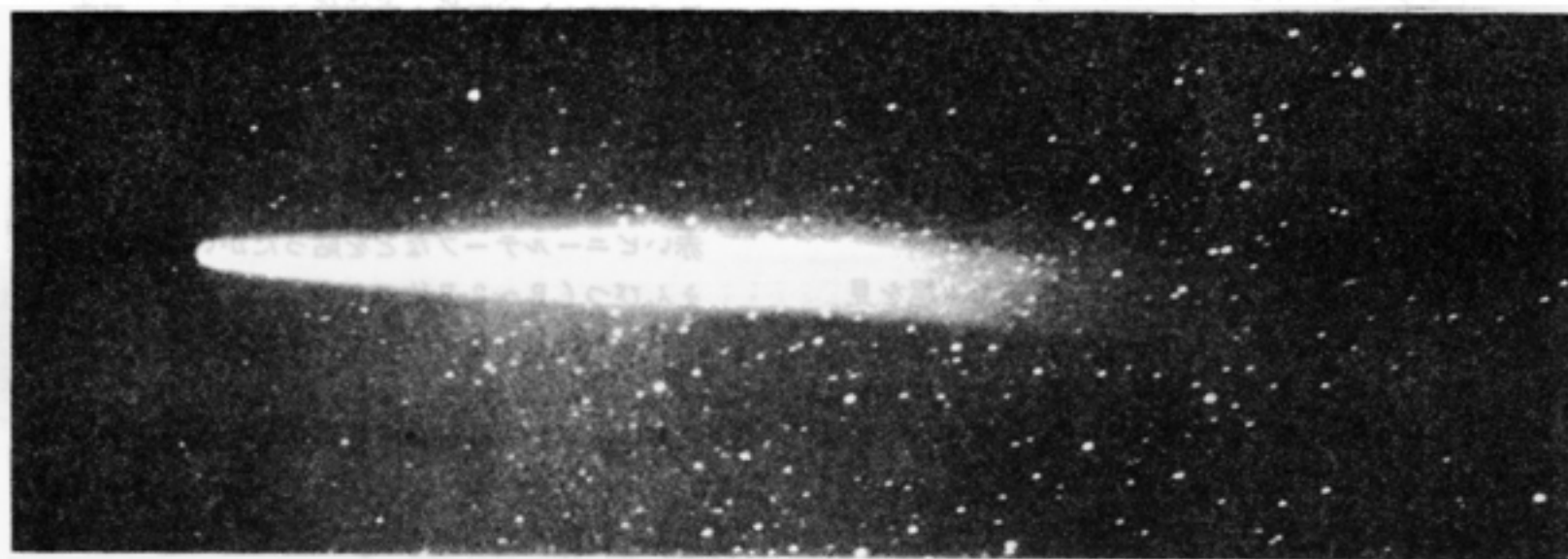


写真 上 1910年5月12日のハレー彗星 (ハール天文台)
左下 '85年10月16日
右下 '85年11月8日

☆ 来た！ハレー彗星

ハレー彗星の記録をとろう

12月に入り、朝晩の冷えこみも一段ときびしくなり、夜ハレー彗星をながめるにも防寒への気配りが大切になってきました。しかし、空気はすみ、空はさえわたって星を見るには最高の季節となりました。

さて、ハレー彗星ですが、12月中はうお座を東から西に移動し、下旬になってみずがめ座に入ってゆきます。移動する速さは上旬で1日あたり角度で2度ほど。中旬になると1.5度、下旬は1度位です。1日に2度という月のみかけの大きさの4倍も動くことになり、毎日見ていると星座の中を移ってゆくようすがわかります。

ハレー彗星の位置は、図1からだいたいの方がよくと高さを読みとり、図2で正確な位置を確かめてください。図1は12月中旬の夜7時の南を中心とした星座です。上旬は夜8時、下旬は6時ごろの空と同じです。

尾もだいふ伸びてきました。双眼鏡でも尾を見ることができるとおもいます。

ハレー彗星を見つけることができたなら、記録をとってみましょう。記録といってもあまりむずかしく考えずに、スケッチをしてみたり、写真撮影に挑戦するのもおもしろいと思います。

ASA1600のフィルム 天の川が見える位の空の場合

カメラレンズの 焦点距離	標準露出時間	写りかた
35ミリ前後	F2 30～45秒 F2.8 45～60秒	小さいが、彗星は点像となる
50ミリ前後	F1.4 20～30秒 F2 30～45秒	ほぼ点像となる
85ミリ前後	F2 10～20秒 F2.8 20～30秒	大きく写るが彗星像は流れる

表1 露出時間のめやす

スケッチによる記録

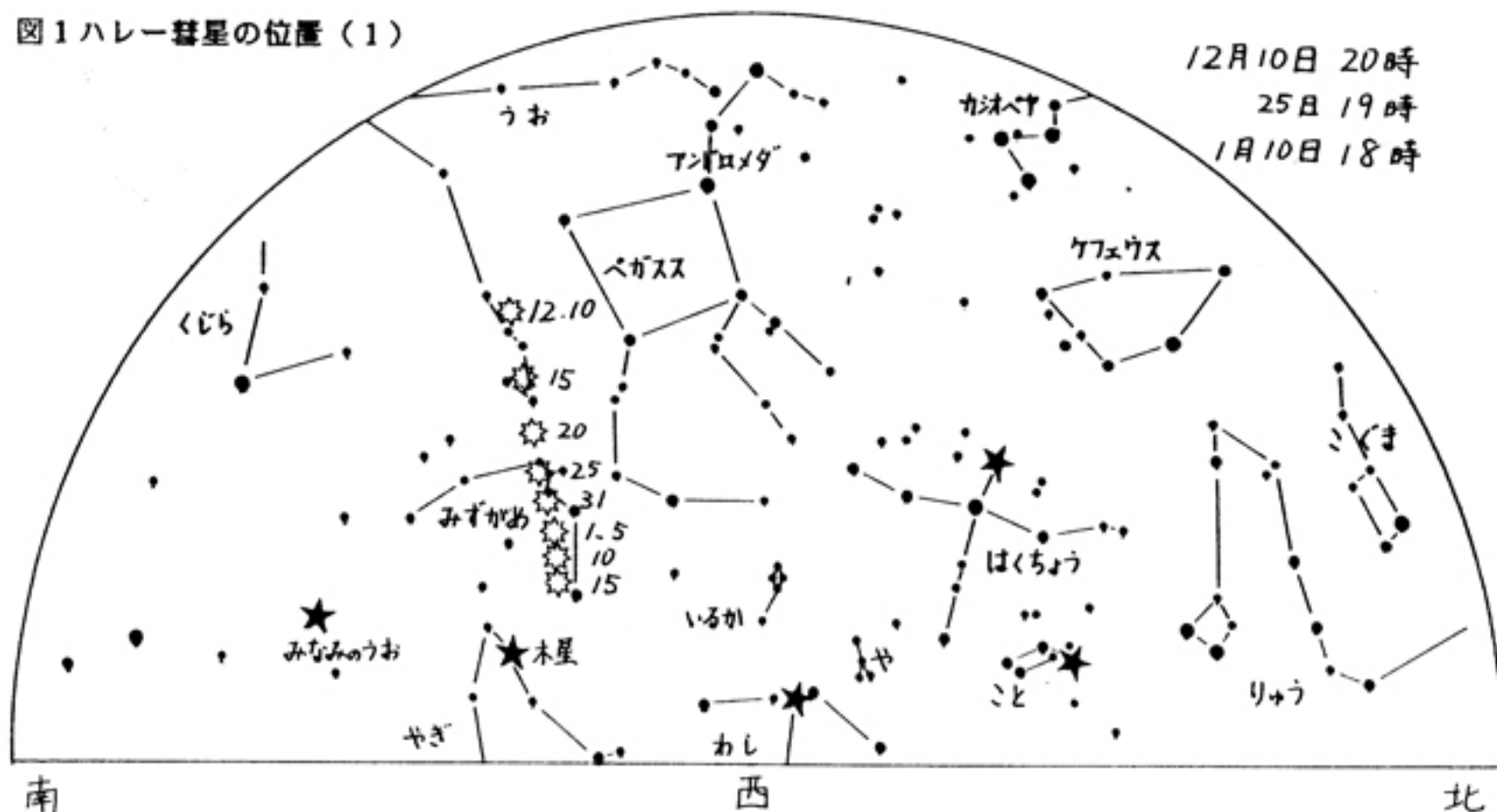
目で見たり、双眼鏡や望遠鏡で見たハレー彗星の姿をまわりの景色や星といっしょに書き込みます。

用意するもの

がばん（ベニヤ板に紙バサミでとめても良い）
赤いビニールテープなどを貼ったかい中電灯
えんぴつ（B～2B位のもの）
スケッチ用紙（画用紙やケント紙のような厚紙が良い）

スケッチ用紙は博物館の受付にも用意してあります。1人1枚に限りおわけしますので、それをもとにして作ってください。

図1 ハレー彗星の位置（1）



書きかたはなるべく力を入れずに、ゆっくりと
ていねいに書きこみます。なおす時は質の良い消
しゴムを使って消してから書きなおしましょう。
記録ですから日付と時刻を忘れないように。

写真による記録

高感度のカラーフィルムを使うと割と簡単に
に写せます。ただし、月明りがあったり、街の明
りのひどい所ではむりです。なるべくまわりの暗
い星の良く見える所(天の川が見える位だと良い)
で写してみましょう。

用意するもの

カメラ(シャッターにB(バルブ)がついてい
て、レンズの明るさがF 1.4~2.8位、焦点距
離の長さが35ミリから100ミリ位)

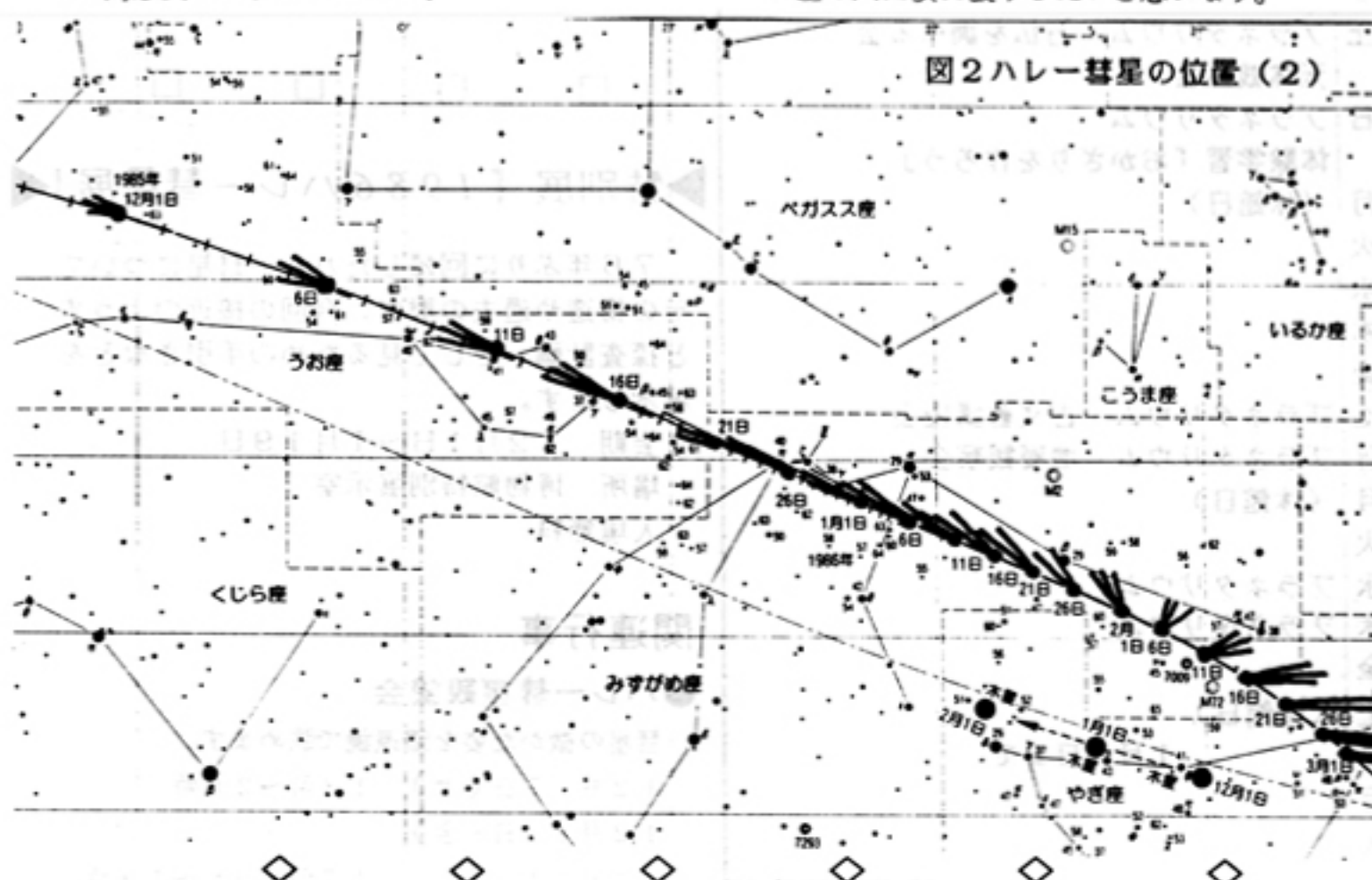
三脚(一番短かくして使う)

レリーズ(シャッターを開きっぱなしにする)

フィルム(ASA感度が1000から1600
の高感度のカラーフィルム)

写し方は風景を写すのと同じで、距離は無限大
にして、ハレー彗星のはうに向けます。ファイン
ダーでは見えませんから、まわりの星の位置から
けんとうをつけます。露出はレンズの短いものは
長くでき、30秒から2分、レンズの長いものは
あまり長くすると星が動いてしまいますから、だ
いたい、20秒から1分位がめやすです。1枚と
るだけではなく、露出を10秒ずつ変えたり、し
ぼりを一番ひらいた状態から1段ずつしぼったり
しながら数枚写します。その時に、必ず1枚毎に
時刻、露出時間、しぼりの数値を記録しておきま
す。表1を参考に写してみてください。

あなたのハレー彗星を記録してみましょう。な
お、博物館では特別展で、みなさんのハレー彗星
の記録を展示しますので、ぜひ博物館受付にお持
ちください。特別展期間中にお持ちくだされば、
特別展示室に、特別展終了後は三階プラネタリウ
ム室の入口横に展示したいと思います。



「ハレー彗星観測ガイド」(誠文堂新光社)の図に加筆

プラネタリウム

●12月のテーマ「ハレー彗星接近」

ハレー彗星の過去の接近や、今回星空のどのあたりに見えるかについて、解説します。

投 影 日	券発売開始時刻	回	投影開始時刻
土 曜 日	朝9時より 第1回、第2回の 券を同時発売する	第1回	14:00
		第2回	15:30
日 曜 日	朝9時より 第1回、第2回の 券を同時発売する	第1回	11:00
		第2回	14:00
火曜日	学 校 専 用		
水曜・木曜日	学 校・団 体 専 用		

1	日	プラネタリウム 「ハレー彗星展」
2	月	(休館日) (1月19日まで)
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	プラネタリウム 古文書講読会 土曜観覧会
8	日	プラネタリウム 自然観覧会 地層観覧会
9	月	(休館日)
10	火	
11	水	
12	木	デッサン教室
13	金	デッサン教室
14	土	プラネタリウム 石仏を調べる会 天体観覧会
15	日	プラネタリウム 体験学習「おかざりを作ろう」
16	月	(休館日)
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	プラネタリウム 古文書講読会
22	日	プラネタリウム 地層観覧会
23	月	(休館日)
24	火	
25	水	プラネタリウム
26	木	プラネタリウム
27	金	
28	土	(休館日)
29	日	1月4日まで
30	月	
31	火	

高瀬コレクションのうち、明治末から大正期にかけ作られた団扇の「団扇絵」を展示します。

当時の風俗、時世を反映したもの。縁起ものなど楽しい絵柄が多くあります。

土屋のローム層を観察します。

日時 1月12日(日) 9時～16時
(雨天中止)

場所 平塚市土屋付近

申込み 12月26日までに、往復はがきで博物館へ。多数の場合は抽選で30名まで。

□ □ □ □

76年ぶりに回帰したハレー彗星について、その構造や過去の歴史、今回の接近のようすと探査計画、そして見るための手引きなどを展示します。

会期 12月1日～1月19日

場所 博物館特別展示室

入場無料

彗星の微かな姿を望遠鏡で眺めます。

12月 7日(土) 18時～20時

12月13日(金) "

1月11日(土) 17時30分～19時

場所 博物館屋上

くもりや雨の場合には中止となります。ご了承下さい。